啓 発 活 動

平成11年度実験センター見学者実績

平成１１年度の実験センター見学者実績を表－１にまとめた。
１年間で、１１４団体１６３２人の見学者があり、官公庁、一般市民、学識経験者の割合が多くなっている。

表　平成11年度実験センター見学者実績表

	官公庁		民間		学識経験者		市民		その他		合計	
月	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	2	9	2	8	3	18	0	0	0	0	7	35
5月	2	45	2	55	0	0	0	0	3	26	7	126
6月	5	97	2	13	1	2	2	42	1	4	11	158
7月	7	30	3	12	1	2	4	83	1	5	16	132
8月	3	61	0	0	0	0	2	118	2	43	7	222
9月	4	22	1	3	1	39	1	17	0	0	7	81
10月	6	93	1	3	3	69	1	8	1	3	12	176
11月	8	202	3	25	2	17	4	93	3	57	20	394
12月	2	13	0	0	1	1	1	12	0	0	4	26
1月	2	47	2	4	2	60	0	0	2	3	8	114
2月	4	55	1	3	0	0	0	0	1	12	6	70
3月	7	49	0	0	2	49	0	0	0	0	9	98
合計	52	723	17	126	16	257	15	373	14	153	114	1632

水環境クリーンウォーク

県民の方々に、琵琶湖の水環境の現状を自分の目で見て、肌で感じとってもらうとともに、身近なところからその保全に向けた行動に参加してもらい、琵琶湖の尊さや水環境の重要性について理解を深め、よりよい水環境の創造に向けて認識を新たにしてもらうため、「琵琶湖の日」関連事業の一環として本事業が実施された。

また、平成10年1月1日に「環境にやさしいまちづくり」を目指し、市民の健康で文化的な生活を実現するために施行された草津市環境基本条例に基づく「環境にやさしい週間」関連事業の一環として開催された本事業の開催に協力し、実験センターの施設を参加者に説明した。

1．日　時：1999年7月4日（日）13:00～15:00

2．内　容：一般県民等から募集した参加者に、矢橋帰帆島（水環境科学館）をスタート地点として、烏丸半島（水生植物公園みずの森前）をゴール地点とした湖岸沿い（約10km）を、以下の企画に参加しながらウォーキングをする。

(1)湖岸の清掃活動
(2)ヨシ野外学習会
(3)水質浄化共同実験センター（Biyoセンター）施設見学　など

3．参加者数：72名

4．写真及び新聞掲載等

写真4-1 施設案内（その1）

写真4-2 施設案内（その2）

パンフレット

滋賀県「びわ湖の日」（7/1㈭）

CLEAN WALK

草津市「環境にやさしい週間」（6/27㈰～7/3㈯）関連事業

水環境クリーン・ウォーク

びわ湖大好き人間集まれ！

参加無料

平成11年

6月27日（日） ※雨天の場合は、7月4日（日）に延期

［スタート］滋賀県立水環境科学館（草津・矢橋帰帆島）
［集合時間］午前9時30分　［出発時間］午前10時
［ゴール］Aコース「Biyoセンター」（約6キロ）
Bコース「みずの森（烏丸半島）」（約10キロ）
［解散時間］到着後、随時解散
（Aコース午後3時ごろ、Bコース午後4時ごろ終了予定）

［内　容］琵琶湖の環境保全を考え、実践しながらの湖岸ウォーキング（6キロ・10キロコース）
①湖岸の清掃活動　②ヨシ野外学習会　③「Biyoセンター」施設見学　など
［持ち物］弁当・水筒・リュックサック・筆記具・雨具・帽子など
［交通機関］
スタート（水環境科学館）へは
- ＪＲ草津駅西口から浜大津行き（8：40発）約15分「矢橋」バス停下車、徒歩約10分
- マイカーで来られた方は、矢橋帰帆島公園駐車場（無料）を利用できます。

Aゴール（Biyoセンター）からは
- シャトルバスで「水環境科学館」まで運行します。（乗車無料）

Bゴール（みずの森）からは
- 烏丸半島からＪＲ草津駅西口行きバス約20分（各自で乗車・有料）
- シャトルバスで「水環境科学館」まで運行します（乗車無料）

［その他］小学生以下の方が参加される場合は、保護者の同伴をお願いします。
ケガなどについては、応急処置はしますが、責任は負いかねますのでご了承願います。
［定　員］200名（申込先着順）
［申込方法］平成11年6月25日（金）までに、電話・FAX・はがきにて「参加行事名・住所・氏名・年齢・電話番号」を下記までご連絡ください。
［申込み／問合せ］①滋賀県立 水環境科学館　☎077（567）2488（月曜日除く）
〒525-0066　草津市矢橋町字帰帆2108　FAX 077（567）4008
②草津県事務所生活環境課　☎077（567）5445（土・日曜日除く）
〒525-8525　草津市草津三丁目14－75　FAX 077（564）1733
③草津市環境課　☎077（561）2341（土・日曜日除く）
〒525-8588　草津市草津三丁目13－30　FAX 077（561）2479
［主　催］滋賀県／草津市／（財）滋賀県下水道公社
［協　力］（財）淡海環境保全財団／（財）琵琶湖・淀川水質保全機構

みんなで琵琶湖を守ろう

湖岸で家族連れら72人
ごみ拾いやヨシ原見学

琵琶湖南湖の湖岸沿いを歩きながら水環境への理解を深めてもらう「水環境クリーン・ウオーク」が、草津市内で繰り広げられた。

湖岸のごみ拾いをする「水環境クリーン・ウオーク」の参加者＝草津市の琵琶湖岸で

びわ湖の日（七月一日）などの関連イベントとして、県と市などが共催。約六㌔と約十㌔の両コースに、家族連れら合わせて七十二人が参加した。

県立水環境科学館（矢橋町）を出発した参加者は途中、湖岸の二カ所で清掃活動をし、空き缶や空き瓶などポリ袋五十袋分のごみを集めた。

草津川河口付近のヨシ原では、ヨシの生態などを学んだ。目的地の琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター「Biyoセンター」（志那町）と市水生植物公園みずの森（下物町）では、施設内を見学。参加者はごみの多さに驚きながら、琵琶湖を守ることの大切さを再認識していた。

平成11年7月13日
中日新聞（朝刊）

実験センター生き物調査
－自然観察会－

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターでは、多自然型水路で水質浄化やどのような生き物が生息していくか（ビオトープづくり）の調査を行い、水辺環境の創造に役立てるための基礎データをとっている。今後、地域住民の方々とネットワークをつくり、一体となって水辺環境づくりを取り組んでいこうと考えている。このため、平成１１年８月に小学校高学年生以上の人々を対象に、チラシ、ポスター、草津市広報、新聞およびインターネットなどで広く公募して、実験センター生き物調査（水生生物、陸生植物のどちらかを体験していただく）を行った。

１．日時

平成１１年８月７日（土）10:00～12:30

２．場所

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（滋賀県草津市志那町地先）

３．プログラム

当日のプログラムを表3-1に示した。

表3-1 当日プログラム

時　間	内　　容	
9:30～10:00	受付	
10:00～10:01	開会挨拶	
10:01～10:02	講師紹介	
10:02～10:05	施設の概要説明	
10:05～10:10	平成10年度に実験センターで観察された生き物の説明	
10:10～10:17	メダカについて	
10:17～10:20	注意事項、スタッフ紹介	
	（水生生物）	**（陸生植物）**
10:20～10:45	調査方法の説明・実演	観察の仕方、観察
10:45～11:10	観察	観察
11:10～11:25	プランクトン観察・説明	標本の作り方説明・実演
11:25～11:45	まとめ作業	まとめ作業
11:45～12:10	発表	
12:10～12:25	講評	
12:25～12:30	アンケート記入、質問応答	
12:30	閉会挨拶	

参加者は各自実験センターに集合するようにした。9:30から受付を開始し、10:00から開始とした。開会挨拶、講師の先生がた（琵琶湖博物館の学芸員）の紹介、施設の概要説明、平成10年度の調査で確認された生物の概要説明、メダカの説明、注意事項を行った後、

水生生物と陸生植物にわかれ、観察およびまとめ作業を行った。各班に１人の担当スタッフがついた。観察結果を各班ごとに発表した後、講師の先生がたからの講評、アンケート記入、閉会挨拶を行った。

４．当日の配布物

当日、参加者への配布物は、名札、プログラム、注意事項、実験施設の概要パンフレット、実験センター内で観察された生物をまとめた「Ｂｉｙｏセンターの生き物たち」、めだかについて、アンケート用紙および琵琶湖・淀川環境事典ＣＤであった。

５．主催・協力

主催：(財) 琵琶湖・淀川水質保全機構

協力：建設省近畿地方建設局琵琶湖工事事務所、滋賀県立琵琶湖博物館、草津市、草津市教育委員会、(財) 草津市コミュニティ事業団

６．結果

6.1 参加者

応募者は69人（男：34人、女：35人）で、参加者は当日の飛び込み参加者を含めて68人（男：33人、女：35人）であった。参加者の年齢層は4歳～69歳であった。陸生植物の体験者は10人（男：２人、女：８人）、水生生物の体験者は58人（男：31人、女：27人）と水生生物体験希望者が圧倒的に多かった。陸生植物は５人ずつに２班、水生生物は８～９人ずつに７班にわけ、班単位で観察からまとめまでの作業を行った。

6.2 実施状況

実施状況を写真6-1～写真6-6に示した。

写真6-1
開会挨拶

写真6-2
観察方法の実演

写真6-3
自然観察

写真6-4
ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝ観察

写真6-5
まとめ作業

写真6-6
講評

6.3 アンケート結果

今後の参考のためにアンケート調査を行った。アンケートの記入者は60人であった。その結果を図6-1、自由記述欄の記述結果を表6-1に示す。

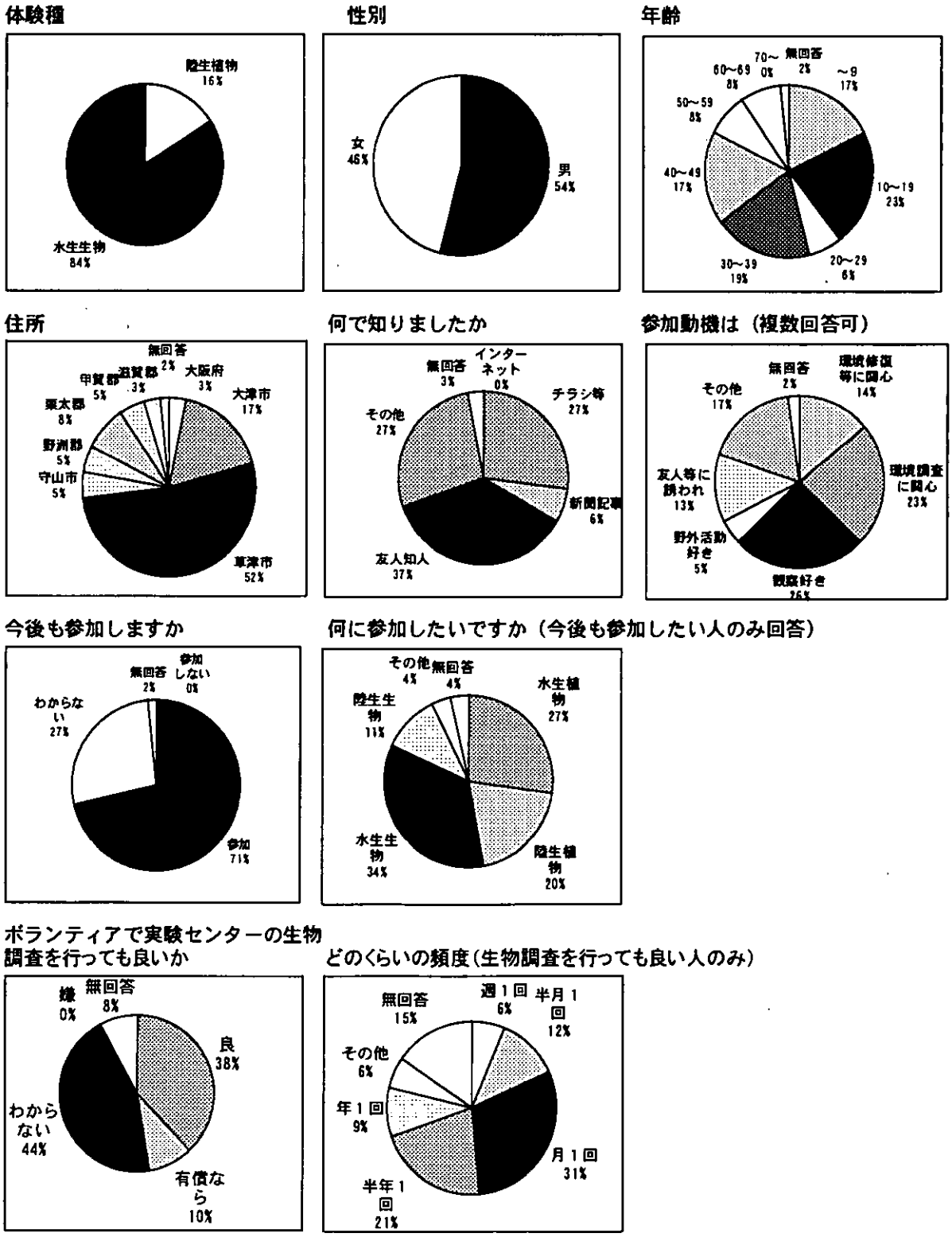

図6-1 アンケート調査結果

表6-1 アンケート調査結果（自由記述欄）

参加動機のその他の記入

人	内　容
10	子供が夏休みの自由研究にでもしてくれればと思って参加した。
5	お父さんにすすめられた。
4	学校の科学部
1	勢いで

自由記入

人	内　容
8	楽しかった。参加して良かった。
6	準備、運営等ご苦労様です。感謝します。
4	今後も続けて欲しい。また参加したい。
4	いままで知らないことやなかなか気づかないことが分かって良かった。
4	色々な種類の水生生物が見られて良かった。驚いた。
3	雨が降っていて残念だった。
3	担当の先生・スタッフの方が親切で、いろいろ教えてもらった。
3	魚が捕れて良かった、嬉しかった。
2	もっとゆっくり体験してみたかった。もう少し時間が欲しかった。
2	はじめての体験で楽しかった。
2	自由研究に役立ちそうでなかなか良かった。
2	私たちが子供のころにいた虫がここには沢山見られ、楽しかった。
2	実験ｾﾝﾀｰが何かと思っていましたが、今日、参加して目的が分かりました。
2	家族、友人にこの企画を伝えたいです。
1	参加者の年齢が色々で、大変良い雰囲気でした。
1	本格的な観察会に参加できて良かった。
1	自然のままの状態を守って行きたいです。
1	Biyoｾﾝﾀｰの生き物たちは非常に参考になりました。
1	コンクリート水路と土・草水路では生物の種や個体数の余りの違いに驚いた。
1	ザリガニが多かった。
1	自分で採取したプランクトンを直ぐに顕微鏡で確認し、専門家の説明が聞けて有益であった
1	セルビンに魚がちゃんと入っていたのが面白かった。
1	イトトンボのヤゴを初めてみた。
1	タイリクバラタナゴの雄と雌がしっかり観察できた。
1	タイリクバラタナゴが貝にたまごを産むなんて知らなかった。
1	あのメダカが絶滅種になりつつあるという話を伺い、自然界の激変ぶりを痛感した。
1	メダカがもっと増えて欲しい。
1	昔に戻った様で楽しかった。
1	今日観察できなかった他の場所を観察してみたいので、また来たい。
1	小学校教員をしていますので、具体的に生物調査方法を知り、学校の学習に生かしていきた
1	参加型という形式は、レクチャーとは違い身にしみてよくわかります。
1	子供たちがとても活発で楽しみも倍増しました。
1	お茶のサービスが良かった。
1	顕微鏡の机が揺れて見ずらかったのが残念。
1	Biyoｾﾝﾀｰの生き物たちにページをつけて欲しかった。
1	応募者の年齢を下げてもよかったのでは。
1	周辺地域の人々の関心がや参加が少ないように思うので、これからの課題と思います。

参加者の性別は、男女ほぼ半々であった。年齢は、10歳～19歳が一番多く23%で、次いで30～39歳であった。20歳以下の参加者は40%を占めていた。実験センター近隣の草津市内居住者は52%で、次いで大津市の17%であった。実験センターの生き物調査（自然観察会）を「友人や知人から聞いて知り参加した」人が37%と一番多く、次いで「チラシやポスターや広報誌で知り参加した」となった。「インターネットを見て参加した」人が0%であった。参加した動機は、「植物や生き物の観察が好きだから」や「環境調査に関心があったから」が多く各々約25%であった。また、その他の動機としては、「子供の夏休みの自由研究や宿題のために参加した（10人）」、「学校の部活として参加した（4人）」であった。今後もこのような生き物調査を実施した場合に参加するかの問いには、71%が「参加する」とし、「参加しない」と回答した人は0%であった。体験したいものは、水生生物、水生植物、陸生植物、陸生生物の順に多かったが、各々30～10%程度でさほど開きはなかった。自由記入では、様々な感想、意見があったが、「また参加したい」や「今後も続けて欲しい」といった積極的な感想が多かった。また、「顕微鏡を設置した机が揺れて見づらかった」や「もう少し時間が欲しかった、ゆっくり体験したい」などの意見もあり、今後、実施する場合の運営や設営での課題と考えられる。

6.4 マスコミ取材状況

草津市政記者クラブやマスコミ数社に実験センター生き物調査（自然観察会）の開催案内を事前に通知したところ、当日、京都新聞社と中日新聞社の取材があった。掲載記事を記事6-1、6-2に示す。

水辺環境への関心高めよう

草津のBiyoセンター 児童ら自然観察会

草津市志那町の琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（Biyoセンター）で七日、同センター内に生息している動植物を調査する「自然観察会」が開かれた。

同センターにはビオトープ（野生動物の生息空間）として作られた水路があり、生き物が住みやすい水辺環境づくりの研究に使われている。

同観察会は、水辺環境への地域住民の関心を高めようと、同センターを運営する琵琶湖・淀川水質保全機構が主催、親子連れら約六十人が参加した。

まず、同センターの職員と県立琵琶湖博物館の学芸員から、施設の概要や調査の方法などについて説明を受けたあと、九つの班に分かれ、植物と水辺の生物の調査を行った。

水辺の班では、水路に仕掛けたわなや投網を使って生物を採取。ザリガニやオイカワ、タナゴなどがとれると、子どもたちは「魚だ、魚」「オタマジャクシもいる」と歓声をあげた。

このあと、プランクトン観察や植物標本づくりも行い、同センター内の生物分布を白地図にまとめた。

採取した水辺の生物を眺める参加者ら

記事6-1(1) 京都新聞記事（H11. 8. 8朝刊）

「生き物とのつながり知って」

草津のBiyoセンター

実験水路などの調査結果を紹介

冊子を作製

草津市志那町の「琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター」（Biyoセンター）はこのほど、同センター内のビオトープ（野生動物の生息空間）に住む生き物を紹介する冊子「Biyoセンターの生き物たち」＝写真＝を作成した。

同センターは、建設省や県などによって、一九九七年八月に開設。川や琵琶湖の水の浄化実験や、生き物が住みやすい水辺の環境をつくる実験などを行っている。

同冊子は、昨年度に同センター内のビオトープで専門家によって行われた調査結果を基に作成された。A5判、三十四ページ。実験水路周辺の生き物たち（生息マップ）のほか▽同生き物図鑑▽同生物リスト―などを五章で構成している。

冊子には、植物（二十種）や鳥類（八種）、魚類（同）、昆虫（二十種）、は虫類（二種）をカラー写真を添えて詳しく紹介されている。また巻末の生物リストには、昨年の調査で確認された生物を一覧表で掲載している。

同センターでは、同冊子を約百四十部を作成。すべての漢字にふりがなを振っており、このほど開いた自然観察会で親子連れに配布したところ、好評だったという。このため、来年度も今年の調査結果を加えた改定版を発行する予定で、部数を増やすことも検討している。

記事6-1(2) 京都新聞記事（H11. 8. 24朝刊）

草津の水質浄化施設で観察会

いたぞメダカ おっザリガニ

人工水路で網を使って魚などを捕る参加者＝草津市の琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターで

植物も採集 参加の60人

草津市志那町、琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターで七日、自然観察会が開かれた。

センターは、葉山川の河口部に造られた広さ約五万平方㍍の水質浄化実験施設で、九年に開設された。自然河川に近い構造の多自然型水路などがあり、ビオトープ（生物の生息空間）づくりが進められている。

昨年度の調査で、施設内で植物二百二十一種、昆虫二百四十種、底生動物五十九種などが確認されたことからふ、それらの生き物を見付けてもらおうと、センターの事業を受託している琵琶湖・淀川水質保全機構が観察会を企画した。

市内外から約六十人が参加。県立琵琶湖博物館の学芸員を講師に、植物と水生生物の二班に分かれて、センター内で調査した。参加者は、確認された生き物をまとめたガイドブックを参考に、網などを使ってメダカやザリガニを捕獲。水生植物を採集するなど、予定時間を超過する熱心さだった。

記事6-2 中日新聞記事（H11. 8. 10朝刊）

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター年報　第2号
— 平成11年度 —

発　行　2000年9月

建設省近畿地方建設局
滋賀県
水資源開発公団関西支社
財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構

実験センター　〒525-0005　滋賀県草津市志那町地先
TEL　077（568）2032
FAX　077（568）2052

問い合わせ先　財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構
〒541-0041　大阪市中央区北浜1丁目1番30号
TEL　06（6202）1267
FAX　06（6202）1317

E-mail　biyokiko@byq. or. jp